

開講科目名／Course	看護アセスメント学演習	
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 2 学期／Second	
開講区分／semester offered	2 学期／Second	
単位数／Credits	1.0	
学年／Year	2	
主担当教員／Main Instructor	石田 佳代子	
担当教員名／Instructor	石田 佳代子、内倉 佑介、三苫 美和、安部 涼子	
必修・選択 ／compulsory subject	必修	
講義形態 ／Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	看護アセスメント学概論で学んだ看護過程の一連のプロセスの理解を深め、その基礎理論を活用し、事例展開を行うことで、実践に活用するための方法を学ぶ。	
到達目標	1. 看護過程の意義や目的を説明できる。 2. 対象理解のための系統的な情報収集・整理、根拠に基づいたアセスメントができる。 3. 対象の身体・心理・社会的側面から導いた全体関連図を記載できる。 4. 看護診断を行い、優先度の決定ができる。 5. 対象に応じた目標設定、アセスメントに基づいた計画を立案し記述できる。 6. 看護計画、実施、評価について、事例展開により知識を活用し記述できる。 7. 看護過程の評価の観点を説明できる。 8. グループワークに積極的に参加し、自己および自己のグループの課題を説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、5.地域性・国際性、6.探求心と創造力	
授業計画	01. 事例による演習オリエンテーション 02. グループワークによる事例演習 (1) アセスメント (情報収集、情報の整理) 03. グループワークによる事例演習 (2) アセスメント (問題の予測、原因、メカニズム等) 04. グループワークによる事例演習 (3) 病態関連図の作成 05. グループワークによる事例演習 (4) 全体関連図の作成 06. 中間発表会 (1) 07. 中間発表会 (2) ・ディスカッション 08. グループワークによる事例演習 (1) アセスメントの修正 09. グループワークによる事例演習 (2) 看護診断の修正 10. グループワークによる事例演習 (3) 病態関連図の修正 11. グループワークによる事例演習 (4) 全体関連図の修正 12. グループワークによる事例演習 (5) 計画立案、評価 13. 最終発表会 (1) ・ディスカッション 14. 最終発表会 (2) ・ディスカッション 15. 気付くトレーニング学習	
その他の授業の工夫	事例による看護過程の展開をグループで行い、グループワークや発表会によるディスカッション、デブリーフィングを通して、思考を整理し、多角的な視方、考え方を身に付け、さらに表現力を高める。	
時間外学修	中間発表会、最終発表会の課題を達成するように、時間外学修も含めて計画的に進める。 事前学修：事前課題レポートを作成する (9h 3h×3回) 事後学修：フィードバックによる修正を行う (3h)	
評価方法と評価割合	原則100%出席し、グループ討議することを評価の前提とする。 演習記録 (80%)、発表内容 (20%)。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学[2] (医学書院) NANDA-I看護診断定義と分類2024-2026 (医学書院) 看護診断を導く情報収集・アセスメント 第7版 (Gakken)	
参考書	看護がみえる 看護過程の展開 (メディックメディア) 根拠がわかる疾患別看護過程 改訂第3版 (南江堂) 病気がみえる 各シリーズ (メディックメディア) 経過がみえる疾患別病態関連マップ第2版 (Gakken)	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	石田佳代子：病院の看護師経験 三苫美和：病院の看護師経験 内倉佑介：病院の看護師経験 安部涼子：病院の看護師経験

教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護師経験を通して、エビデンスに基づき、臨床現場と理論を結び付けながら教授する。	